

5.1 基本理念

(1) 現状の課題

本市の水道は、昭和33年の給水開始以来、市民生活の向上や発展する産業を支えるため、増加する水需要を賄うべく水道施設の拡張を行ってきました。しかし、近年では、少子高齢化の影響もあり、長期的な見通しでは約10年後から水需要は減少するものと考えられます。

今後は、老朽化した水道施設の改良・更新や再構築、安全でおいしい水を給水するための水源の保全や水質管理の強化、地震をはじめとする自然災害や油流入等の事故対策としての施設の耐震化や危機管理体制の強化、これらを実現するための技術・財政基盤の確保等、量的拡大から質的向上への転換を図っていく必要があります。また、河川の最上流に位置する分水嶺の都市として、環境保全への貢献も積極的に行っていくことが求められています。

(2) 塩尻市の将来都市像

『第五次塩尻市総合計画』では、30年後も選ばれる地域をつくるため、目指す都市像として「確かな暮らし 未来へつなぐ田園都市」を掲げています。また、同計画中の基本施策「住みよい持続可能な地域の創造」に係る中期戦略（2018年～2020年）においても、全市戦略であるプロジェクト「危機管理の強化と社会基盤の最適活用」の中で、水道施設の耐震化の推進や適正な維持管理による機能維持を挙げています。

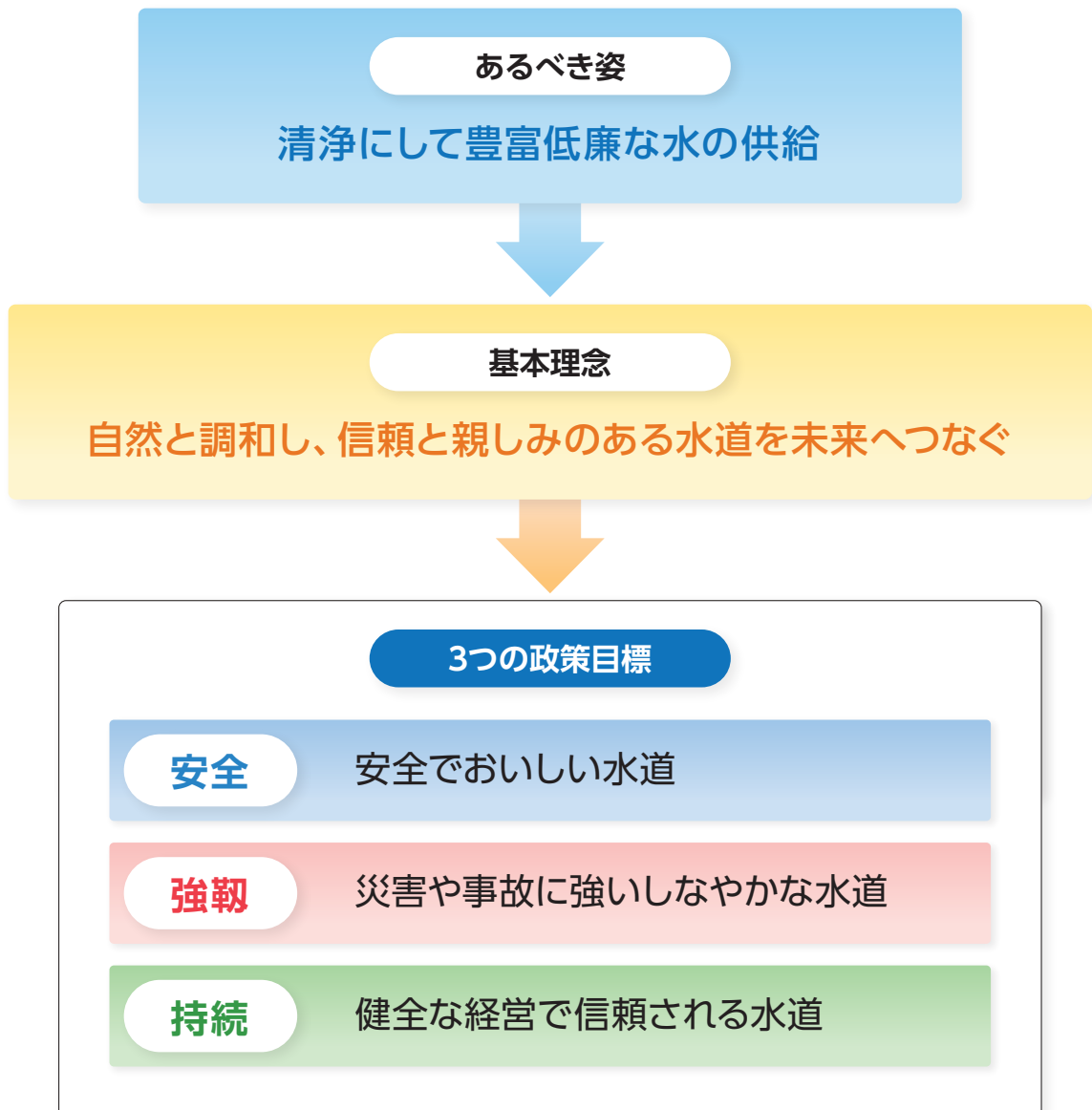
(3) 水道事業の基本理念

第1期ビジョンでは、水道法にうたわれている「清浄にして豊富低廉な水の供給」を水道事業の“あるべき姿”とし、当時遂行されていた『第四次塩尻市総合計画』で目指す将来の都市像を踏まえ、「自然と調和し、信頼と親しみのある水道を未来へつなぐ」を基本理念としました。この基本理念は、本市水道事業の姿勢として普遍的なものであり、また、『第五次塩尻市総合計画』で目指す将来の都市像とも整合することから、第2期ビジョンにおいてもこの理念を継承することとします。

この基本理念のもと、水道事業が抱える様々な課題に取り組むことで、次世代に継承するにふさわしい持続可能な水道事業の構築を目指します。

5.2 政策目標

基本理念「自然と調和し、信頼と親しみのある水道を未来へつなぐ」に基づき、国の新水道ビジョンで示された水道の理想像である「安全」、「強靱」、「持続」の3つの観点から、本市水道事業の現状の課題を踏まえて施策目標を設定します。



政策目標1 【安全】安全でおいしい水道

水道施設は水道水を利用者に給水することを目的とした施設であり、何よりも安全性が求められます。本市は河川の最上流部に位置し、清浄な自己水源を有していますが、適正な水質管理により水質を維持向上させ、利用者に安心して使っていただける安全でおいしい水道を目指します。

また、本市の豊かな水源環境を保全し、清浄な自己水源を将来にわたって継承していくための取組についても重点的に実施していく必要があります。

政策目標2 【強靱】災害や事故に強いしなやかな水道

水道は市民の生活及び社会経済活動を支える重要なライフラインであり、水道水を安定的に給水することは水道事業者の重要な責務です。

平常時はもとより災害や事故発生時にも減・断水等利用者への影響を最小限に抑えることが重要で、特に本市周辺には、糸魚川－静岡構造線(中部)をはじめとして数多くの活断層があるため、地震災害に対する備えが必要です。また、令和元年の台風19号に代表される豪雨災害や、少雨化による渇水に対しても水道水の安定供給が可能なように備える必要があります。施設の耐震化や危機管理体制の強化を図り、災害や事故に強い水道を目指します。

また、災害や事故に強い水道とは、災害等による施設の被害そのものを最小限にすることのみならず、被害はあっても他施設からのバックアップが可能であったり、速やかな復旧が可能であったりという「しなやかさ」が求められます。本市でも強靱かつしなやかな水道施設の構築を目指します。

政策目標3 【持続】健全な経営で信頼される水道

水需要が減少する中、今後は老朽施設の更新等に多額の投資が必要となりますが、水道システムの効率化を図りながら計画的に施設更新を行うことで、長期的視点に立ったコスト縮減と、将来にわたる健全な経営を目指します。また、事業運営のための財政基盤や技術基盤の確保に努めるとともに、情報公開や給水サービスの向上を図り、利用者に信頼される水道を目指します。

また、水道事業は、浄水場の運転やポンプ設備等エネルギー消費産業としての側面も有しているため、地球温暖化対策等の環境負荷の低減も重要となっています。費用対効果に配慮したうえで、省エネルギー、資源リサイクル等の地球温暖化防止のための取組や、水環境の保全を推進し、環境に配慮した水道を目指します。